

第40巻 第2号 予告

特集「廃棄物処理」

- 〔巻頭言〕 公衆衛生の原点 —— 廃棄物学 —— 鈴木武夫
 〔総説〕 都市ごみの焼却に伴うダイオキシン問題 田中 勝
 〔原 著〕 有害廃棄物の適性処理に関する研究 高月 紘
 土壌及び廃棄物埋立層における有害化学物質の挙動に関する研究 田中信久
 〔現場報告〕 廃棄物処理現場で抱えている問題 貴田晶子
 埼玉県 廃棄物分野の課題と取り組み 小林 進
 し尿浄化槽等家庭雑排水問題の現状と対応 桜井敏郎

第40巻 第3号 予告

特集「住まいと健康」

編 集 後 記

前号で予告しましたように、今号から誌名を「公衆衛生院研究報告」から「公衆衛生研究」とし、関係官庁及び研究機関だけに配布していたのを全国の保健所にも配布先を広げました。それにとまって投稿規定も変更し、広く公衆衛生従事者からの投稿を受け入れることになります。

健康に影響する要因が複雑化し、人の健康に対する不安や期待が高まれば、実際の活動で住民の健康に対応しようとする保健所や市町村では、公衆衛生活動の内容や方法はますます複雑化し、研究機関での研究内容が公衆衛生の現場で求められる内容から遊離する危険性が增大することが考えられます。

研究機関であり、なおかつ公衆衛生従事者への教育機関である本院にとって、現場での活動に結び付いた研究を深め、現場から生じる課題解決のための研究を進めるという立場は非常に重要な立脚点といえるでしょう。

そのような意味で、本誌が現場との接点の一つとして役割を担うことを期待しての誌名や投稿規定の変更でもあります。さらに、毎号、今日的话题などを「特集」として、掲載する予定です。今回は、保健所への呼びかけとして「保健所はいま」ということで、さまざまな立場で実践している方々に、現場での活動を通じて感じたことや考えたことなどを寄せていただきました。

今後、本誌がこのような役割を果たすために、本院関係者だけでなく、広く公衆衛生従事者からの原著はもとより、様々な原稿が寄せられることを期待し、またご意見などを、編集委員会宛にお寄せ頂くことをお願いいたします。

(母里 啓子)